

随筆



『子育て』

わんぱくクリニック
呉屋 良信

一昨年、49歳にして3番目の子（長男）に恵まれた。私は小児科医なので、乳児の扱いには慣れているつもりだが、日常の世話となると別のようなのだ。この年になると、赤ちゃんの世話がいかに大変かを思い知らされた。

出生後1週間ほどで、自宅に帰ってきたが、毎晩夜泣きで起こされる。妻もそこその年齢なので（実年齢を書くと後が怖いので伏せておく）、やはりつらそうだ。夜中は交代で抱っこしたりミルクを飲ませた。3ヶ月頃からミルクによる下痢が続く、改善するのに2~3ヶ月を要した。クリニックでも、乳児の長期の下痢についてよく相談を受けるが、いざわが身に降りかかると、なかなかうまくいかないものだ。7~8ヶ月のお座りができる頃から、毎朝お風呂に入れるのが私の日課になった。また、毎晩抱っこしながら子守唄のCDで寝かしつけるのも、日課のひとつとなってしまった。この長男はとにかくよく飲み食べる。6ヶ月で体重が10kg、1歳で12kgであった。（ちなみに、6ヶ月男児の標準値は約8kg、1歳で9.5kgである。）抱っこした時の、私の腰や腕への負担は相当なものだ。早く寝かしつけないと、翌日の診療に影響を及ぼすことは『間違いない！』しかし、必死になって寝かそうとすればするほど、ぐずって寝てくれないものだ。患者さんの母：「夜、なかなか寝てくれなくて困るんです。」私：「お母さん、一緒に横になってあげたら、赤ちゃんも安心して寝ると思いますよ。」これは、私が日ごろお母さん方によく言うフレーズだが、今ではちょっとためらいながら言わざるを得ない。

この4月で1歳半になったので、午前保育に通わせてみた。そのとたん、1週間毎に風邪を

ひき、突発性発疹から始まり、咽喉頭炎（クループ症候群）、流行性胃腸炎、滲出性扁桃炎、咽頭結膜熱（プール熱）、ヘルパンギーナと次々小児期の感染症に罹患した。4~5月の2ヶ月で、保育園に通った実日数は、10日程度だろうか。患者さんの母：「保育園に行き始めてから、毎週のように熱を出したり咳・鼻水で病院通いをしています。体が弱いんですか？精密検査は必要ないですか？」私：「1歳前のお子さんは、まだ十分な抵抗力がありません。保育園では大勢のお子さんと接触し、いろいろなウイルスに遭遇します。この年齢の保育園児で、毎月熱を出して病院通いをすることは、特別なことではありませんよ。」これも、私がお母さん方に答える時のフレーズだ。妻もよく聞いていたはずだが、いざわが子になると忘れてしまうようだ。妻：「大丈夫かな。体よわいのかな。」私が同じことを言うと、「でもこの子は毎週40度の熱を出すのよ。いくらなんでも、毎週毎週いろんな風邪が2ヶ月も続く子は見たこと無いわ。」理屈では分かっているのだろうが、毎日看病している母親には、あまり気休めにもならないようだ。どうやらこのフレーズも、診療で使いづらくなってきた。

長男が誕生してわずか1年半だが、次から次と本当にいろいろな経験をさせてもらい、新たな発見もあったように思う。（上に二人の娘もいて、妻と共に育児や子育てに積極的に係わってきたつもりだ。今までに経験したことばかりだろうが、忘れていたり気づかなかったのかも知れない。）突発性発疹では40度の熱が3日間、プール熱では39度以上の熱が5日間続き、教科書通りの経過をたどった。私が小児科医でなければ、毎晩眠れぬ夜を過ごしたことだろう。「お母さん、突発性発疹は3日、プール熱は高熱が4~5日も続くんですよ。特効薬はありませんが、高熱でも食事や水分がとれて、笑顔で一人遊びが出来れば、心配ないですよ。」日常診療で、母親を安心させるためによくかける言葉だが、夜間40度の高熱を出して「うーん！うーん！」となっているわが子を前にしては、気

休めにもならないことだろう。ほとんどの乳幼児がこうした感染症を経験して、免疫力をつけていくのである。また全ての親御さんたちは、わが子と一緒に子供に襲い掛かる病気と闘いながら、子育てにいそしむのであろう。親にとって育児や子育ては楽しみな反面、『命がけで子供を守る』という毅然とした決意が必要である。出生率が毎年過去最低を更新している中、全国一所得の低い我が沖縄県が、出生率日本一というのは、誠に誇らしく思える。苦しい生活の中でも、一生懸命子育てに頑張っている沖縄県の親御さんたちを、全国も見習って欲しい。また、少子化対策とお題目ばかり唱えて、実情にそぐわない政策ばかり打ち出す行政（国）こそ、子育て真っ最中の親御さんたちへのサポートを、真剣に考えて欲しいものだ。

この1年半の経験を糧とし、患者さんやそのご家族への心のケアにも配慮した診療を、心がけたいと思う。

★リレー状況

—平成14年以前掲載省略—

17. 西平守樹先生（西平医院）Vol. 39 No. 2
18. 澤口昭一先生（琉球大学医学部眼科学講座）Vol. 39 No. 3
19. 安里良盛先生（安里眼科）Vol. 39 No. 5
20. 照屋 勉先生（てるや整形外科）Vol. 39 No. 6
21. 国吉 毅先生（南部徳洲会病院）Vol. 39 No. 9
22. 吉川朝昭先生（西崎病院）Vol. 39 No. 11
23. 濱崎直人先生（沖縄リハビリテーションセンター病院）
Vol. 40 No. 1
24. 永山盛隆先生（豊見城中央病院整形外科）
Vol. 40 No. 2
25. 武内正典先生（武内整形外科）Vol. 40 No. 5
26. 長嶺功一先生（前県立那覇病院長）
Vol. 40 No. 7
27. 奥島憲彦先生（ハートライフ病院）
Vol. 40 No. 10
28. 豊見山直樹先生（那覇市立病院）Vol. 40 No. 12
29. 仲間 司先生（県立那覇病院）Vol. 41 No.5
30. 新里 讓先生（沖縄赤十字病院）
Vol. 41 No.11
31. 友利正行先生（ともし内科循環器科）
Vol. 42 No.2
32. 具志一男先生（ぐしこどもクリニック）
Vol. 42 No.4
33. 神谷鏡子先生（かみや母と子のクリニック）
Vol. 42 No.6

